

水素ステーション
情報管理サービスの提供

インドネシアにおける
環境エネルギーモニタリングシステムの構築

ICT活用による
イノベーションの創出と環境負荷低減



ICT活用による イノベーションの 創出と環境負荷 低減を目指して

**GHG排出量削減を推進する
「環境貢献ソリューション」の提供**

特集
Human
Centric
Intelligent
Society

Solution 1

富士通グループ社員16万人の ワークスタイル変革による環境負荷低減

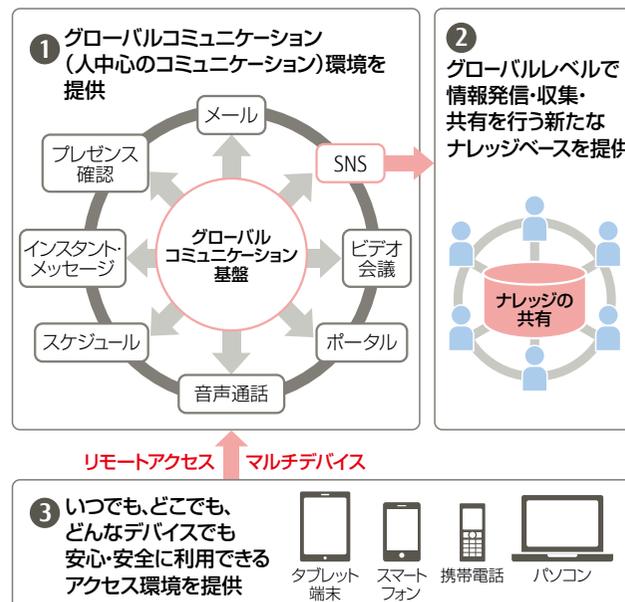
富士通グループでは、グローバルに事業を展開する日本の大手企業など約150社・100万人を対象に、社内実践ノウハウに基づいた「ワークスタイル変革」支援のためのコミュニケーション基盤を提供しています。

富士通グループは世界中の社員が持つナレッジを効率的に共有・活用し、企業としてのパフォーマンスを最大化するため、2012年1月にグローバルコミュニケーション基盤の構築を開始し、2014年2月に国内約200社・11万人の基盤統一を

完了しました。海外でも、欧州、北米、中国・APACで統合を進めており、2015年度末までにグローバル全体で約500社・16万人の統一が完了する予定です。

2013年9月からは、世界でも類を見ない大規模ソーシャルネットワークワーキング(SNS)の本格運用も行っています。新しいコミュニケーション基盤ではシームレスな情報共有が可能となり、コミュニケーション活性化やビジネススピードの向上にもつながりました。

グローバルコミュニケーション基盤のイメージ



📄 コスト削減効果(当社実績)

- グループ全体のコミュニケーション基盤の統合によってシステムの開発・運用保守費用を圧縮し、**グループ全体で前年同期比約50%の運用コストを削減しました。**
- 社内の定例会議や部門全体会議などがWeb会議に置き換わり、1日平均3,000会議がオンラインで開催されています。それにより、移動時間を含む**出張コスト管理の削減を徹底している部門では、最大で前年同期比20%の削減ができました。**

🌿 環境負荷低減効果(当社試算)

- ワークスタイルの変革は、コスト削減とともに環境負荷の低減にも大きな効果をもたらします。1万人規模のお客様を想定し、「会議の開催案内」「ビデオ会議」「ナレッジの共有」「忙しい人(離席率が高い人)への電話連絡」「ICTインフラ」の5つの観点で評価した試算では、**基盤統合前と比較して約80%のCO₂排出量に相当する削減効果が表れました。**

水素ステーション
情報管理サービスの提供

インドネシアにおける
環境エネルギーモニタリングシステムの構築

ICT活用による
イノベーションの創出と環境負荷低減

Solution 2

IoTを活用した 保守業務の効率化

従来の“壊れたものを直す”という保守作業に対し、「モノのインターネット」(Internet of Things:IoT)を活用することで不測の稼働停止を防ぐことができます。社内実践で培ったノウハウを活かした富士通の保守サービス「SupportDeskサービス」は、センシング技術を活用した自動通報機能によりハードウェアの障害予兆情報を検知。通報された情報を基に専門スタッフが適切に対応し、トラブルを未然に防止します。

また、自動通報機能や障害予兆機能を活かしつつさらに進化させたソリューションが、製造業における保守業務の高度化を実現する「GLOVIA ENTERPRISE MM」です。富士通のセンシング技術を活用し、現場の機器にセンサーを取り付けてリアルタイムに稼働情報を収集。それらの情報をビッグデータの統計解析技術によって分析することで、機器ごとに異なる故障タイミングを予測します。壊れてから修理するのではなく部品を計画的に交換することが可能となり、コストと環境負荷の面から効果を発揮します。現地での保守作業も、スマートデバイスを活用して効率化を実現。コールから作業完了報告までの時間を短縮し、顧客満足度向上に貢献します。

環境負荷低減効果(当社試算)

- IoTを最大限活用した保守スタイルでは、**部品の配送や保守スタッフの出張に伴う環境負荷が低減され、約80%のCO₂排出量に相当する削減効果**が表れました。

Solution 3

クラウドで、ICTインフラの 環境負荷低減

今や、当たり前のようにクラウドサービスを利用できる時代になりました。クラウドサービスは、データセンターに集約した高性能サーバを共有し、インターネットを介して必要な機能だけを利用することができます。導入コストも2割程度削減され、お客様にとってシステムの導入が容易になります。また、お客様がサーバやストレージを保有する必要がなくなるため、ICT機器が消費する電力使用量が削減され、環境負荷の低減にも貢献します。富士通は、万全な災害対策・セキュリティ対策を施したデータセンターを構築し、様々なサービスを提供しています。医療機関向けサービスの1つとしてクラウド型電子カルテシステム「HOPE Cloud Chart」を提供しています。

導入事例 医療法人 愛生会病院様

愛生会病院様では、クラウドによる医事会計システムおよび電子カルテシステムの活用で、これまで個別に管理されていた患者様の情報を一元化。多岐にわたる煩雑な医療事務を効率化しました。ICTインフラにクラウド環境を活用することで、安全面・コスト面での優位性も確保され、患者様に安心をお約束するとともに環境負荷低減にも貢献しています。

「クラウドサービスの導入により、環境負荷の低減に貢献しながら、患者様と向き合う時間が増え、医療の質も向上し、会計窓口での待ち時間も短縮されました。今後も、ICTで、地域医療の質のさらなる向上に貢献します。」



医療法人 愛生会病院
理事長

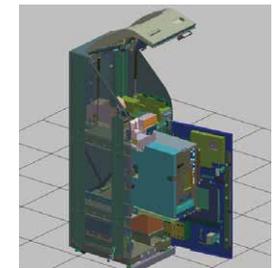
三井 慎也 氏

Solution 4

3次元シミュレータを 駆使した開発

競争力のある製品をタイムリーに市場投入できるよう、富士通のものづくり現場での実践を通じた製造業向け3次元仮想設計支援シミュレータ (Virtual Product Simulator: VPS) を提供しています。従来、組立性、操作性、保守性などの検証は試作機により複数回行っていましたが、VPSでは事前に3次元CADデータを使ってバーチャルに検証することで、試作の回数を減らし、開発コスト削減を実現します。また、製造工程の最適化も検証できるため、工場の省スペース化、効率的な人員・設備活用にも貢献します。

さらに大きな特長が、複数の作業者が同じ画面を見ながらリアルタイムに対話し、遠隔地間で検証できる点です。関連部門が一体となった開発体制の構築によりライフサイクル視点で最適な設計を行うことで、保守のしやすさやリサイクル性の向上にもつながっています。



VPSによる3次元CADデータ

環境負荷低減効果(当社試算)

- 遠隔地間で同時に検証できることから、**打合せに伴う移動・出張も減らすことができ、約30%のCO₂排出量の削減効果**が表れました。